

第4回「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会
「防災スペシャリストに求める能力」及び
「有明研修における構想及び内容」に関する委員意見

カテゴリー	要 点	委員意見	整理の方向
求める能力	<ul style="list-style-type: none"> 活動の根拠の明示（防災基本計画） 	⇒ プログラムが何に基づきつくられているかが分かるよう、防災対策に必要な活動が「防災基本計画」に基づいていることを明示しておいてはどうか。	⇒ 参考資料3で根拠を明示する。
	活動の前提への追加 <ul style="list-style-type: none"> エポックメイキングな災害事例 ハザード 	<活動の前提> ⇒ いろいろな災害事例においてはどうか。いろいろなパターンの災害を分かっている方が活動の具体的なイメージがわかりやすい。 ⇒ 防災対策が変わるきっかけとなったエポックメイキングな災害は適宜紹介することが大事。 ⇒ 災害事例を踏まえて伝えた方が、説得力がある。 ⇒ 自然現象のもたらすハザードなどは補足した方がよい。	⇒ 参考資料5-1に追加する。
	<ul style="list-style-type: none"> 既存研修プログラムとの関係性 	⇒ 既存のプログラムとの違いや関係性について言及してはどうか。 ⇒ 相互に協力し合って進めるのがよい。	⇒ 資料2-2「有明研修のコースと単元(案)」で、既存プログラムとの関係性を整理する。
	<ul style="list-style-type: none"> 知識と技能をセットした効果的なプログラム 	⇒ 研修へのニーズは、特に技能の習得への希望が多い。知識と技能をセットにした研修を整理するのがよい。	⇒ 知識と技能をセットにした効果的な研修プログラムを設定する。
	主な学習項目への追加 <ul style="list-style-type: none"> 感染症 心のケア ガイドライン 	<主な学習項目> ⇒ 保健衛生に、感染症に関することを具体的に入れた方がよい。 ⇒ 心のケアは重要な活動でタスクレベルではないか。 ⇒ 既存のガイドラインなどは覚えてもらいたい教材の一つ。ガイドラインを教えることも必要。 ⇒ 広報に、国内にいる外国人への対応も具体的に入れておいた方がよい。 ⇒ 男女共同参画なども考慮しておくとうい。	⇒ 参考資料5-2に反映するとともに、内容の精度を高める。

カテゴリー	要 点	委員意見	整理の方向	
有明研修構想および内容	<p>体系的な仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格制度 習熟度評価制度 	<p>⇒ 最低限これだけ取らないと単位をあげないこととしてもよいのではないか。例えば、いくつかのコースを受講すれば資格がもらえるなど。</p> <p>⇒ 将来的には、資格制度などの導入を視野に考えていくとよい。</p> <p>⇒ 防災担当者の質をあげるために、研修を受けなければならなくなるような仕組みや制度が必要。何らかの強制力があってもよい。</p> <p>⇒ どれほどの能力が身についたか評価する仕組み（習熟度評価）があってもよい。</p>	<p>⇒ 次年度において検討する。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 組織としての総合的な防災力の向上（防災スペシャリスト） 	<p>⇒ 組織のある人が防災基礎を受け、複数ある個別対策は、組織のいろんな部門担当者がそれぞれ受けることになれば、個人がスペシャリストにならなくても、組織として総体としてはスペシャリストがいることになる。</p> <p>⇒ 個人の中の蓄積にもでき、組織として有資格者が増えるという蓄積にもなる。さらなる効果としては、組織間の連携がスムーズになる。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 防災力強化評価の指標 クレジットの蓄積 	<p>⇒ 個人にも組織にも、あるいは組織間にもクレジット（信用）がたまっていくということと強調できる。</p> <p>⇒ 研修の受講状況を、都道府県や市町村の防災力強化の指標の一つとして考えてもよいのではないか。組織としての履修状況を評価してもよい。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 研修の活用の仕方 メッセージ 	<p>⇒ 研修の活用の仕方を示し、各市町村にスペシャリストを育ててほしいというメッセージをうまく提示できるとよい。</p> <p>⇒ 選択式になるとどう選べばよいか、迷いが生じる可能性があるため、履修プランがあるとよい。</p>		<p>⇒ 次年度の募集時に研修の活用方法を具体的に明記したパンフレットを作成する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・個別・総合のバランス 	<p>⇒ 基礎・個別・総合のバランスを考え、総合の比率をあげた方がよいのではないか。</p>		<p>⇒ 資料2-2のコースと単元の設定(案)を見直す。</p>

カテゴリー	要 点	委員意見	整理の方向
	<ul style="list-style-type: none"> • eラーニングの活用 	⇒ 基礎は将来的にeラーニング化する方向もあるのではないか。	⇒ 次年度において開始する。
	出前研修 <ul style="list-style-type: none"> • 地域特性に応じた内容 • クレジットもあげられるようにする • 県とのコミュニケーションの場 	⇒ 出前研修の内容は、有明研修のコース内容と大きく変わらない方がよい。「活動の前提」部分として示す事例を、地域特性に応じたものとするればよい。 ⇒ クレジットをあげられる範囲内で、地域ニーズに応えられれば良い。 ⇒ 出前講座をやるべきところを定め、定期的実施するといったやり方もある。 ⇒ 出前講座を、県とのコミュニケーションが増える場として使える。	⇒ 次年度の出前研修のプログラム作成時に、意見を考慮して対応する。